

歴史探訪 Part II - ②

江戸川木材工業株式会社

顧問 清水 太郎

大学聴講2年目 日本文化史 後期 初回の講義は、15「寛永文化と天皇 朝廷」と題し興味深い内容でありました。

寛永期(1624年～1643年)前後を画期とする文化史の兆候がありました。

後水尾天皇(上皇)を中心に相国寺などが再興され、池上本門寺の再興に本阿弥光悦が関わり、山門の扁額に揮毫を行い、108の石段は加藤清正によって寄進されました。

本阿弥光悦は寛永の三筆の1人と讃えられ、中山法華経寺の本堂にあたる法華堂の扁額に『妙法花経寺』と大書した揮毫を行いました。

家康の死後、久能山にあった墓は日光東照宮に家光によって移され、『東照大権現』と崇められましたが、陽明門の勅額は後水尾天皇の揮毫によるものであります。

1868年戊辰戦争のとき、官軍の大將であった板垣退助は東照宮を焼かなかった為、神橋のほとりに銅像が建てられました。

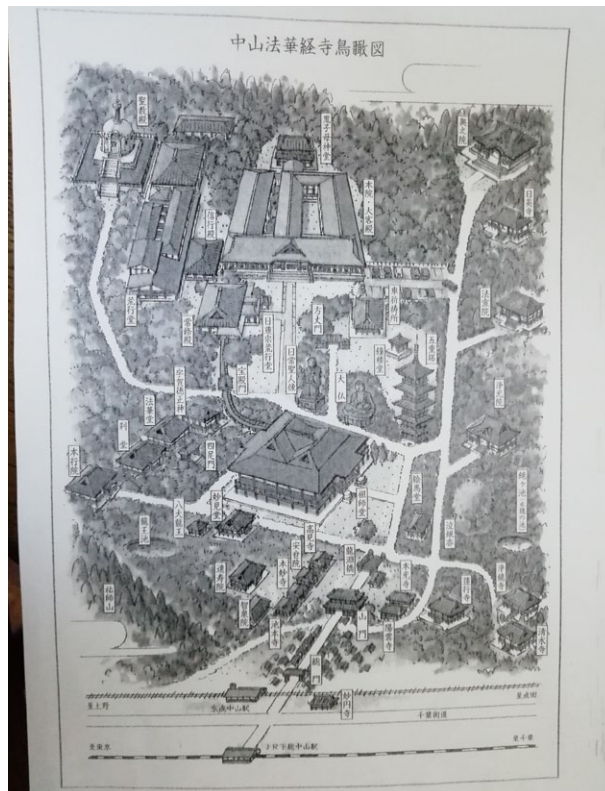
家康の墓を日光に移転したのは天海僧正の進言によるものといわれております。

天海は関ヶ原の戦い後、豊臣家に散財させる為、法向寺の大改修を秀頼に勧め、大仏開眼の日に新しく鑄造された鐘に刻まれた長い漢文の中、『国家安康 君臣豊楽』のたった8文字に言い掛かりを付け、これを釈明せよと迫り、これがもとで大坂の陣が起きました。悪評高い天海ではありますが、家康、秀忠、家光、三代の将軍に仕え、徳川265年、磐石の体制を築いた功労者であります。

私は1940年東京生まれで物心ついたときは戦争の最中でありました。昭和19年(1944)サイパン陥落後、島に飛行場が出来て以来、B-29の編隊が来襲し、伯父が住む市川に疎開し1945年終戦の翌年中山小学校に入り以来12年間市川に住んでおりました。法華経寺はよく遊びに行きましたが、戦後の混乱期でもあり誰も教えてくれず、歴史的に由緒ある事物に再会できたことに感謝し、今後少しずつ学んでまいりたいと念じております。



中山法華経寺の本堂にあたる法華堂の扁額に『妙法花経寺』と大書した揮毫



中山法華経寺 鳥瞰図

16. 「水戸光圀の動向と歴史認識 (後水尾と禅、特に黄檗宗)」について学びました。

中国では17世紀、明が滅び、清が起り、交代期に明の要人が来日して禅文化が入ってまいりました。瀟湘八景は湖南省の洞庭湖から見える八つの景色に因んで、水戸光圀は能見堂から見る金沢八景を指定しました。隠元が来日し宇治に萬福寺を建立しました。

家綱、綱吉は中国を理想化し、禅文化を採り入れ、1650年代から17世紀初頭かけて黄檗ブームが起りました。水戸領にある那須で国造碑が発掘、光圀による考古学がスタートしました。光圀は『大日本史』を編纂し、南朝を正統化し、楠正成を崇めました。

今回は東海道ネットワークの会21例会で、「駿遠3城巡り 今川 武田 徳川の戦国鏖迫り合い」を辿ります。



萬福寺

出典：<https://ja.wikipedia.org/wiki/>